



## 子どもの思いや願いを実現する学校運営協議会へ

10月26日(水)に金井中学校の学校運営協議会が行われました。「生徒の自主・自立を目指して～地域から見た中学生の姿～」をテーマに行った熟議では、「私たちの姿は地域の方の目にはどのように映っているのか。また、要望などがあれば教えていただきたい。」と、生徒会長・副会長が委員に対して意見を求めました。委員から様々な意見が述べられましたが、その言葉には生徒に対する信頼や期待、生徒を誇りに思う気持ちが込められていたように思います。

金井中学校のように、学校運営協議会に子どもが参加することで学校運営協議会がもつ役割がさらに機能し、熟議においては、より「子どもの必要感」のある地域学校協働活動が生みだされることが期待できます。学校の実態や地域の共通の課題・共通の目標からスタートする学校運営協議会は、子どもの思いや願いを実現しようと取り組むことによって「地域とともにある学校づくり」がさらに推進され、このようにして生み出された地域学校協働活動によって「学校を核とした地域づくり」へとつながっていくのではないのでしょうか。

## 学校運営協議会から地域学校協働活動へ

10月7日(金)に第一中学校で「体力別遠足」が行われました。全校生徒が自分の課題や体力に応じて、ドッコ沼や瀧山、千歳山、学区内城下町などのコースから行き先を選択します。遠足当日、生徒たちは「地域」という大きな学びのフィールドへ出かけていきました。7月に開催された学校運営協議会では、校長先生から「伝統的に行われてきた活動だが、様々な問題から実施が難しくなっている」というお話がありました。しかし、子どもの思いや願いを何とか実現したいという思いは教職員も保護者も地域住民も同じです。委員からは「PTAにもできることがある」、「地域団体も協力できるのではないか」といった意見が出されました。そして、「体力別遠足」は学校、家庭、地域が一緒になって行う地域学校協働活動として実施されました。



「体力別遠足」は学校運営協議会で検討され、地域学校協働活動へとつながっていきました。これは、まさに私たちがめざしている「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進」の取組だといえます。また、地域学校協働活動は必ずしも新しい活動を始めなければならないというものではありません。これまで学校で取り組んできた学習活動を学校運営協議会で検討・整理し、学校と家庭、地域がパートナーとなって一緒に取

り組む地域学校協働活動として実施するというこも、一体的に推進するうで大事にしたい考え方です。

## 市PTA連合会での模擬熟議 ～教育懇談会での試み～

10月17日(月) 17:00～19:00 にパレスグランデールで行われた山形市教育委員会・山形市PTA連合会教育懇談会で、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」がテーマとなりました。市内小中学校のPTA会長、母親委員会運営委員に市教育委員会がこれまで、どのようにこのテーマを一体的に推進してきたか、そのための工夫や成果と課題、そしてPTAに期待することなどを本課の佐藤がプレゼンテーションしました。さらに、教育委員と学校教育課長、社会教育課長も加わり、8グループに分かれて学校運営協議会で行われる「熟議」を体験しました。模擬熟議のテーマは「『子どものため』とはどのようなかわり方をいうのでしょうか」というもので、本課の小林が説明し進めました。PTA代表の方々の意欲的な話しぶりに、熟議が深まっていきました。活動内容を決めるなどの具体的テーマでないことがより深まりを見せるのでしょうか。この会を受けて、自校の次回学校運営協議会で、この会の資料を提示したり、出前講座を申し出る学校があったりしました。アンケートにはこのような感想がありました。「本日の議題を学校へ持ち帰り、次回の学校運営協議会に活かしたいと思います。実施されている学校の活動例や、同じグループの方のお話などすごくためになる事が多かったです。学校と地域が一体となって子供たちの生活を見守り、環境作りができる様に何が出来るのか、委員の方々と色々話してみたいと思います。」こうした機会を与えていただいた市PTA連合会に感謝申し上げます。

## 山形市の取組の広報 ～村山地区大会・県大会での発表～

山形市がこれまで進めてきたテーマである「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の取組」について、9月28日(水)に村山地区社会教育推進協議会研修会、10月21日(金)に山形県社会教育研究大会で本課が発表する機会を与えていただきました。10月21日(金)は対面で行われ、山形市の取組について大変興味を持っていただき、多数の質問・意見が出されました。主なものを紹介します。「地協推進員の勤務はどのようにしているのか。」「地協推進員はどんな立場の人がなっているか。」「先生方が忙しい中で、授業時数を確保しながらこの制度をどう進めていけば良いのか。」「教職員への周知をどのようにしていくのか。」「地域と保護者の連携のために、PTAの協力をどうしているか。」「大学生も地協推進員やボランティアとして地域学校協働活動に協力させていきたい。」などです。質疑応答の後、とちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人先生の助言をいただき、大変勉強になりました。11月8日(火)に本課主催の研修会の講師としても廣瀬先生をお呼びしました。詳細は次号でお伝えします。

